

2022年11月のてがたんは少人数・申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回てがたんは12月10日(土)で、テーマは「ホオジロたちの暮らしかた」です。ぜひご参加ください。12月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は12月4日(日)です。

## 11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 →手賀沼遊歩道 →けやき広場 →水生植物園
- 観察日時と天気：2022年11月12日(土) 10:00~11:00 晴れ
- 参加人数：11名(大人10名、子ども1名)
- 市民スタッフ：6名(木村稔、小泉伸夫、石原直子、伊東茂子、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1名(望月みずき)

## 観察した生き物の記録

【\*】は、下見だけで見られたもの。

### 【鳥類】

カモ科：カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：クイナ/カモメ科：セグロカモメ\* /ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ジョウビタキ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：アオジ、オオジュリン 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

### 【昆虫】

トンボ目：アキアカネ/カマキリ目：ハラビロカマキリ、オオカマキリ/バッタ目：アオマツムシ、オカメコオロギ、エンマコオロギ、カネタタキ、マダラスズ、キンヒバリ、シバズ、コバネイナゴ、オンブバッタ/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ/チョウ目：チャバネセセリ、ウラギンシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キタテハ、ジャコウアゲハ、モンキチョウ、キタキチョウ、モンシロチョウ/コウチュウ目：センチコガネ、キクビアオハムシ/ハチ目：ルリチュウレンジ

### 【クモ類】 ジョロウグモ、コクサグモ

### 【草の花】

タデ科：ソバ、イヌタデ、ボントクタデ、ミソソバ/ナデシコ科：ウシハコベ/アブラナ科：タネツケバナ、イヌナズナ、スカシタゴボウ/バラ科：ヘビイチゴ/マメ科：シロツメクサ/カタバミ科：カタバミ/トウダイグサ科：エノキグサ/ムラサキ科：ハナイバナ/シソ科：ホトケノザ、ヒメジソ/ゴマノハグサ科：ウリクサ、トキワハゼ/キツネノマゴ科：キツネノマゴ/キク科：ノコンギク、コセンダングサ、ハキダメギク、キクイモ、オオジシバリ、カントウヨメナ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ

### 【木の花】 ツバキ科：サザンカ/クスノキ科：シロダモ

### 【木の実】 クスノキ科：シロダモ/バラ科：トキワサンザシ/アカネ科：ヘクソカズラ

# 11月の観察アルバム



今回のテーマは「歌で楽しむ自然観察」でした。万葉集に出てくる生きものをいくつか例に挙げ、市民スタッフの木村さんから万葉集の歌の解説をしていただきました。当日はミサゴがすぐ近くを飛び、じっくりと観察することができました。



今月の案内人  
木村稔さん、小泉伸夫さん



① ジャコウアゲハのさなぎ



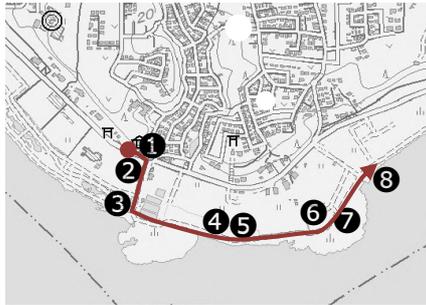
② 越冬前のニホンアマガエル



③ 甘い香りがしたカツラの紅葉した葉



④ 上空を飛んだミサゴ



歩いたルートと観察した生き物



⑤ 田んぼの脇にいたアオサギ



⑥ 紅葉していたケヤキの木



⑦ 外来種のコブハクチョウ



⑧ 北から渡ってきたコガモ

## 今月の鳥 ミサゴ (タカ目ミサゴ科)

ミサゴは日本中に広く分布する魚食性の猛禽類で、水辺でよく見られます。万葉集にはミサゴの出る歌が6首あり、その一つをご紹介します。

みさご居る 荒磯ありそに生ふる 名乗り藻おのの よし名は告らせ 親は知るとも  
この歌を現代語訳すると「ミサゴがいる荒磯ありそに生えている名乗り藻おの(海藻の古い名前)のように名前を教えてくれ、たとえ親が知ろうとも」となります。当時男性が女性に名前を聞くのは求婚を意味し、親に知られても構わないので名前を教えてくれという恋の歌です。ミサゴのいる荒磯の情景が浮かぶ歌で、昔の人がミサゴの生息している環境をよく見ていたことがわかります。



ミサゴの翼を広げた長さは約160cm